

令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	24	学校名	静岡県立吉原工業高等学校	校長名	増田 陽一
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当 部署	達成状況	学校 自己 評価	関係 者 評価	意見
ア	安全教育 の推進と 危機管理 能力の向 上	交通マナーおよび危険予知の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「登下校時、交通法規を遵守している」と答える生徒 100% 達成。 イエロー切符受領者各学年 20 人未満。 	生徒支援部	<ul style="list-style-type: none"> 交通法規を遵守していると答えた生徒は 99%と高い数値となったが、実際には交通法規を守れていない生徒が一定数いる。 イエロー切符受領者は 10 月末段階で延べ 54 人、また 1・2 年生は 20 人を超えた。 	B	B	<p>道路交通法改正で16歳以上が青切符の対象となる。実践的な学習を並行して行うことが重要。</p> <p>法規厳守について課題を明確に示している点を評価したい。自己申告と実態との差があることが今後の課題と感じる。</p> <p>生徒の意識は高く、日頃の指導を感じる。家庭と連携しながら行動改善につなげたい。</p>
		自転車通学者が主体的に車両整備に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> T Sマークに関する指導を徹底し、整備不良事故 0 件。 	生徒支援部	<ul style="list-style-type: none"> 整備不良が起因となる事故は発生しなかった。 	A	A	<p>整備不良が起因する事故ゼロを評価する。自ら危険を防ぎ、適切に対処しようとする姿勢に感心した。</p> <p>事故 0 は大きな安心につながる。</p>

		<p>自治体等、地域との連携を深め、地域安全に貢献する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練への参加率 65%以上。訓練不参加者へ学習機会の提供。 ・「地震等大規模災害発生時の連絡方法や行動について親と話し合っている」と答える生徒70%以上。 ・外部機関と連携した実践的な防災教育の継続。 	<p>総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練への参加率は、生徒、教職員合わせて48.2%だった。 ・地震等大規模災害に向け、用意はしているが、親と話し合う生徒はほとんどいない。 ・自衛隊の方に防災講話をしていただき、現地での様子や実体験を聞くことができた。 	B	B	<p>突発的な豪雨災害も各地で目立っており、防災講話のテーマとして体験談を取り入れてはいかがか。聴講者を保護者にも広げるとよい。</p> <p>地域防災訓練への参加率が目標未達成で残念。家族との申し合わせの大切さも伝えて欲しい。</p> <p>実践的な学びは良い取り組み。保護者への働きかけも期待する。</p>
予防的危機管理の実施	<p>実習・実験等による安全管理を徹底する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工場安全パトロールに対応し、実習室の整理整頓を行うとともに、事故0達成。 	<p>工業科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全パトロールの指摘を受け、改善を進めた。また、普段から整頓を心掛け、学期末に不用品を整理した。細かな安全教育を実習時に行った。 	A	A	<p>高く評価する。細かな安全教育を複数回行う事は重要であり加えて最近のヒヤリハットの共有も行うと効果が上がる。</p>	
	<p>生徒の生活面の状況を把握し、早期指導に繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・面接週間の定期的な実施：各学期1回。 ・生活アンケートの定期的な実施：各学期1回。 	<p>学年部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期、最低1回の面接週間を設け、担任を中心に実施することができた。 生活アンケートを毎学期実施できた。 	A	A	<p>生徒が抱える潜在的な不安や問題を早期に発見する意味でも引き続き、きめ細かな対応をお願いする。</p> <p>忙しい中、各学期1回の面接を実行しているのは評価される。</p> <p>面談やアンケートで丁寧に向き合っていて頂き心強い。</p>	

	健康指導の推進	他団体との連携を推進するとともに、健康に関する知識・能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食欠食者へのセミナーの充実。 ・朝食摂取率 95%以上。 ・歯磨き習慣に関する実態把握と率向上。 ・新入生オリエンテーションでの保護者への呼びかけや、健康管理を題材とした全校集会を実施することで、健康診断結果による再検査受診率を向上させる。 	保健支援部	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に聞き取りして調査したところ、朝食摂取率は 85.8%であった。 ・う歯を処置する必要性を認識させるため、広報誌（掲示物）を 4 回発行した。なお、該当者の受診率は 28.9%であった。 ・歯科以外の再検査受診率は平均 59.3%で例年と同程度であった。 	B	B	朝食摂取率は昨年度 89.4%で、そこまで変わりはない。管理栄養士やスポーツ栄養プランナーの講話が効果的ではないか。 朝食摂取率や歯科受診率など、生活習慣に関する数値が十分に伸びない点について、学校だけでなく家庭との連携の必要性を感じる。
		自己の健康管理を意識させる新体力テストで、男女ともに表彰を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・「1 年間で体力が向上した」と答える生徒 90%以上。 	保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・体力が向上したと答えた生徒は 85%で、目標には達しなかった。 	B	B	自転車通学が多い環境は、体力向上を実感する一因。継続的な取り組みを期待する。
イ	自立や社会参画へ向け、生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握と適切な指導および必要な支援の実践	不登校や学校不適応を早期把握し、支援・指導を充実させることで、生徒を救って卒業へ導く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「チーム担任」による学級経営力の強化。各クラス 3 名の正副担任による取組。 ・適切なタイミングでの保護者連携方法の運用と確立。 ・ケース会議の随時開催。 ・必要に応じた個別の指導計画の作成と活用。 ・教職員間の情報共有強化へ向け情報交換会の週 1 回定期開催の拡大（1 年部 1 h・2/3 年部 1 h、 	保健支援部 学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラス、HR に副担も同席し、指導を行うなど学級経営力を強化することができた。 ・教職員間の密な情報交換の場として、週 1 回の情報交換会を、保健支援部・生徒支援部・学年部・管理職を交えて行うことができた。 ・スクールソーシャルワーカー（SSW）に月数回来校していたが、専門家の視点から生徒や保護者に対応していただいた。 ・週 1 回、学年別に生徒の状況について情 	B	A	多くの目で生徒の様子を観察でき、細かな声掛けができたことは大きく評価できる。職員同士の細かな情報共有の機会があることで、現場を任せられる先生方の悩みを早期に把握できる。課題となるのは、まとまった職員の時間を確保することが難しくなっている点であり、どのように工夫していくか大変だと察する。 チーム担任制や

		<p>月1回SSW参加)と校内研修の開催1回以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命を守る教育として①年度当初全職員へ関係資料の配布②厚生労働省による2学期当初の自殺防止の取組を活用③LHRで警察署員を招いた「命の大切さを学ぶ教室」の開催。④職員安全衛生委員会と連携し窓ロックの設置(目が届きにくいトイレ等)⑤教職員対象普通救命講習の早期実施(5月中旬テスト初日)。 ・教育相談調査票(入学時提出)および保健調査票等の見直し。 		<p>報を共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さに対する認識を高めるための取組①～⑤を計画のとおり実施できた。 ・教育相談票と保健調査票については、質問の意図が正確に伝わるよう文言を修正した。 			<p>外部機関との連携、情報の共有など多忙な中良く取り組んでいると思う。不登校・不適應への対応は非常に丁寧で、学校として「生徒を見捨てない」姿勢が伝わってくる。</p> <p>学校全体で支える体制が整っており、温かいサポートに感謝する。</p>
	<p>新生徒指導提要および新学習指導要領に則り、積極的に外部機関を活用することで指導を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所やNPO法人、および警察・市役所等の外部機関との連携を更に強化する。その一環として関係機関から障害者の就業支援について説明する機会を設けることを検討する。 	<p>保健支援部 生徒支援部 進路支援部 学年部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や富士市若者相談窓口「ココ☆カラ」、児童相談所など、必要に応じて外部機関の協力を求め、活用することができた。 	A	A	<p>ぜひ、引き続き外部機関(特に医療・福祉)と連携を密にした対応をお願いしたい。</p> <p>専門機関との連携は大きな安心につながる。</p>

	「成年年齢・選挙権年齢の引き下げ」および「こども基本法」の成立等の社会変化に対応した指導の実践	教科指導と特別活動の往還により、成年年齢・選挙権年齢の引き下げに対応する。	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者講座、労務講座等と連動した教科指導の実践。 ・地域選挙管理委員会と連携し、主権者教育を実施したうえでの生徒会選挙の実施。 	関係教科(社会)生徒支援部	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に2年生を対象に、富士市選挙管理委員会の協力のもと出前講座を実施し、投票における判断材料の吟味や模擬投票の実践を通して、信託の意識を高めた。 	A	A	<p>判断材料を吟味する際に SNS の情報に流されず、どう見極めるかが重要な事だということも学んでほしい。</p> <p>情報源の信頼性や事実関係を確認する姿勢が重要だ。</p> <p>実践的な学びが生徒の社会意識を育てる。</p>
		<p>生徒指導提要で重視されている、発達支持的生徒指導を推進することで、生徒の自己決定権を尊重しながら自己指導能力を伸張し、主体的・持続的で正しい行動習慣を涵養する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・TPO に合わせた、主体的な行動・選択習慣を身に付けさせるため「校則の見直し」へ生徒会の意見を反映させる。 	生徒支援部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会での意見を踏まえ、校則の一部改訂にむけて生徒の意見を反映させる準備を整えた。 	B	B	<p>自由には責任が伴い、制限のある不自由よりも厳しさや難しさを感じる場面もある。自分を律する姿勢が求められることも伝えてほしい。</p> <p>生徒の意見をよく聞く姿勢を見せるのはいいこと。、少しでも取り入れられれば、意見を出すことの大切さを感じてくれる。</p>
ウ	キャリア教育の推進による能力・適性・希望に応じたきめ細やかな進路指導	<p>進路意識の早期定着と向上を目指し、新たに整理した系統的な進路指導体制(「高校生のキャリアワーク」「志望理由」の活用計画の作成、就職希望者全員の「求人票閲覧システム」への移</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路行事を通して進路意識が向上した」と答える生徒95%以上。 ・「進路について親と話をすると答える生徒90%以上。 	進路支援部 学年部 管理職	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路行事を通して進路意識が向上した」と答える生徒は86.7%、「進路について親と話をすると答える生徒は79.4%というアンケート結果であった。2年生の進学者には冬休みに「保護者との進路アンケート」を実施し、親子で進路について考える機会 	A	A	<p>文句なくA評価だと思う。先生方や事務、外部連携等、関係者の皆さんを含め、学校を支えるすべての方々のご尽力の成果だと思う。この成果をもっとPRして頂きたい。</p> <p>丁寧な進路指導が生徒の意識づく</p>

	行、「進路検討会」への管理職参加)を充実させることで、進路実現を支援する。			を持った。また、3学期当初の担任面談に資料を活用できた。 「高校生のキャリアワーク」「志望理由」の活用計画の作成、就職希望者全員の「求人票閲覧システム」への移行、「進路検討会」への管理職参加を達成することができた。			りに役立っていると感じる。
	商工会議所等と連携し、地域の産業理解を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や放課後の時間を活用した地域企業による校内でのブース設置、延べ15社以上。 ・生徒アルバイト先に関する商工会議所との連携協議。 	進路支援部 生徒支援部	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭での出展、キャリアカフェなど、多くの企業が本校の行事に関わることで、地域の産業理解を促進することができた。 ・生徒のアルバイト意向の調査を行った。 	A	A	素晴らしい取り組みが確かな成果として表れている。大いに評価できる点であり、今後も継続して取り組んでほしい。来場者（特に小中学生）に企業が参加している様子を見てもらうことはプラスである。 沢山の好事例が生まれてきているので、今後も地元企業との連携を続けて頂きたい。
	進路学力として、基礎基本の習得に加え、生徒個々で異なる進路目標を達成するための支援を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・進学模試や小論文模試などの有効活用を通じた偏差値の向上。 ・大学進学希望者に関する進路検討会の定期開催（大学入学共通テスト受験対象者の検討を含む）。 ・学びの基礎診断の有効活用と、前回比 	進路支援部 教務部 学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学志望者に対し、進研模試や小論文模試の受験を促し、学力の向上を目指して補講を計画的に実施できた。同時に、「卒業生の話」や「3年生と下級生との座談会」を実施し、具体的な進路計画を考える機会を持つことができた。 	A	A	吉原工業高校は就職実績が豊富であると同時に、進学面でも専門分野の進路実績が豊富であり、生徒の将来の選択肢が大きく広がっている。このイメージがさらに広がれば生徒確保のみならず学

		<p>較でGTZ 向上者 30% 達成およびD 3 取得生徒への支援。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大学志望者だけでなく、専門学校への志望者に対しても進路講演会を実施した。 ・公募推薦の進路検討会は夏休みに実施。 ・GTZ 向上者は、全体の 43.2% (166 人) 担任や各教科担当から、Dゾーンを中心に生徒への個別の声掛けや指導を実施した。 			<p>校のブランディングの強化にも大いにプラスになる。</p> <p>多延的なサポートが充実している。</p>
	<p>インターンシップ、ワークラリア、海外インターンシップ等、地元企業との連携を密にし、キャリア教育の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「インターンシップ等をとおして、進路意識が向上した」と答える生徒 95%以上。 ・「インターンシップ等をとおした企業研究により企業理解が深まった」と答える生徒 95%以上。 	<p>学年部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「インターンシップ等をとおして、進路意識が向上した」と答えた生徒 69.9% (2年生のみ 92.3%)。 ・「インターンシップ等をとおした企業研究により企業理解が深まった」と答えた生徒 69.6% (2年生のみ 91.5%)。 	B	B	<p>多くの生徒がインターンシップを通じて意識を高め、企業理解を深めた結果は素晴らしい。取り組みの価値は高い。</p> <p>低学年段階からの動機付けや意識を持たせる方法など課題がある。</p>
<p>基本的な生活習慣の確立と職業人倫理観の向上</p>	<p>アフターコロナを意識した出席率の向上。時間厳守と挨拶の励行。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の登校指導の実施。 ・遅刻を各学年 1 日あたり 1 人未満に抑える。 	<p>生徒支援部 教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導により、生徒の表情の変化を察することで生徒支援に活かした。 ・遅刻者は、 1 年生 0.5 人/日 2 年生 0.8 人/日 3 年生 0.5 人/日 	A	A	<p>挨拶が出来ない生徒は 1 年生か。学年が上がるにつれて改善傾向となるのか。</p> <p>成果のある指導ができています。</p>
	<p>学びへ向けた教室文化を醸成することで、生徒の学習環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を喚起するための授業改善。 ・必要に応じた教科担当者会議の開催。 	<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストにおいて別室対応の運用体制を構築した。また、多様な学習ニーズに向けた対応として、教科担当者会議を行い、遠隔授業を 2 件実施した。 	A	A	<p>遠隔授業や別室受験を行うための体制構築という事で、次の展開に期待している。</p> <p>学びやすい環境づくりが進んでいて良い。</p>

		教科指導と特別活動により年間を通して切れ目のない人権教育を実施する。	・「人権を意識し、校則(ソーシャルメディアポリシーを含む)や社会のルールを守ろうとしていく」と答える生徒100%の達成。	生徒支援部 教務部(情報) 学年部 各教科	・校則を守ろうとしていくと答えた生徒は98%であった。 ・情報講話や全校集会、学年集会で情報リテラシーに関する教育を実施した。	A	A	情報リテラシーや人権に関する教育は今後ますます重要。生徒自身が身近な事例や話題を通して発信・発表する機会を設けることは実践的な学びにつながる。
		生徒手帳への記入習慣化等を通して、自己管理能力の伸張を図る。	・生徒手帳活用に関する新たな方策の策定と運用。 ・「やるべきときに、やるべきことがやれた」と答える生徒95%以上。	学年部	・「やるべきときに、やるべきことがやれた」と答える生徒は76.2%であった。	A	A	目的は自己管理能力を伸ばすこと。手帳は自己管理能力を高めるツールとして最適である。 大切な取り組みであり、さらなる成長を期待する。
エ	学習指導の充実	公開授業を充実させることで授業改善に繋げる。 他教科との授業交流を行い、授業改善(教材研究)に積極的に取り組む。この時、教科横断的視点の導入を踏まえた取組を考慮する。	・公開授業を外部へも公開する。オープンスクールと合わせて一般来場者200人以上。 ・公開授業週間における教員相互の授業参観率100%達成。 ・自主的な研究授業実施者15人以上。年次研修者による積極的な取組。配布資料はワークシートのみでも可。	教務部	・公開授業オープンスクールの2回外部へ授業公開をおこなった。展示物の準備について持続的に更新できる流れを構築し、展示物が充実するための方法を考えた。一般来校者156人。 ・公開授業週間における授業参観率83.3% ・自主的な研究授業実施者3人であった。	B	B	一般来場者は昨年134人に対して今年156人で十分評価出来る。研究授業の実施が減っている要因は先生方の時間確保の問題からか。実施方法の工夫をする と良い。 公開授業や研究授業への教員参加率が目標に届いていない点については課題と感じる。 校内で互いの授業を参観する機会はとても重要。生徒の新たな一面を発見する機会ともなるので積極的に行ってほしい。

	<p>新学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業改善・学習評価改善への取組を一層進め、生徒が主体的に取り組める授業づくりを行う。</p>	<p>・「興味を持って主体的に取り組める授業がある」と答える生徒100%達成。 ・「授業が分かりやすい」と答える生徒95%以上。</p>	<p>教務部</p>	<p>・「興味を持って主体的に取り組める授業がある」と答えた生徒91.3%。 ・「授業が分かりやすい」と答えた生徒84.6%</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>授業が分かりやすいと答えた生徒は大きく伸びており、大変評価できる。内発的動機づけを意識して授業に工夫を凝らしているからこそ生まれた数字である。 主体的な学びや授業改善に向けた取組が着実に進んでいることが結果から読み取れる。</p>
	<p>新学習指導要領に則った、生徒の1人1台端末の活用推進および教育の情報化推進。</p>	<p>・教職員研修の実施（端末活用研修の継続、HP・SNS アップ研修の実施）。</p>	<p>教務部 (情報)</p>	<p>・学級閉鎖によりテスト日程が変更となったため実施できなかったが年間を通じて個別対応によりSNS投稿やHP掲載が増えた。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>授業の分かりやすさ、また教職員の支援にも通じる。継続的な支援をお願いしたい。 情報発信の手段が増えたことで、学校の活動状況を知る機会が増えることは良い。</p>
	<p>生徒への学習指導状況と効果を踏まえ、指導体制を見直す。</p>	<p>・新学科による教育課程が完成年度を迎えることから、教育課程の見直しを行う。</p>	<p>教務部 各教科</p>	<p>・教育課程の見直しを産業現場や進路実現の観点で機械工学科と理数化学科で行った。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>工業科は専門性が強い一方で基礎が十分でない生徒もいると伺った。学習が遅れそうな生徒への早期フォロー体制が充実していると生徒も安心できる。</p>
<p>「役立ち感育成プロジェクト」の推進</p>	<p>地域との交流を積極的に行うことにより、コミュニケーション能力と自己有用感を育てる。</p>	<p>・「この1年間で、他団体との交流やボランティア活動に参加したことがある」と答える生徒65%以上。</p>	<p>未来戦略委員会</p>	<p>・「この1年間で、他団体との交流やボランティア活動に参加したことがある」と答えた生徒は56.6%(昨年48.2%)だった。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>昨年に比べ参加率は増えたものの目標値には達成していない。防災訓練などもそうだが地域連携強化を。</p>

		生徒のチャレンジ精神を育成することを通して、自己有用感を醸成する。	・「吉工 TED」の試行を行う。※TED = Technology Entertainment Design		・生徒に意欲向上を働きかけるため、先生から日頃授業では聞くことができない体験を提供する機会を持つことができた。	A	A	とても素晴らしい画期的な取り組みだと思います。 先生方の話が生徒の刺激になっていると思う。
	Society5.0 を生き抜く人材育成へ向けた産業教育の推進	探究的な学びを充実させるとともに、新学科対応へ向けた実験・実習の工夫・改善を行い、生徒の学習成果の発表機会を充実させる。	・「ものづくりに興味を持っている」と答える生徒 90%以上。 ・イベントや出前講座等による学習成果の発表を年間 3 回以上（各工業学科ごと）。	工業科	・ものづくりに興味を持っている 83.2% 実習日誌を作成し、座学においても製作を行うなど、ものづくりに興味を持たせるよう工夫した。 ・各科で出前講座等を 3 回～8 回行い、地域の人達に本校を PR するとともに学習成果を発表した。	B	B	2つの全国大会に出場したことは大きな成果。取り組みが広報活動や生徒募集に確実に結びつき、地域からの評価にもつながっている。 ものづくりへの興味の数値が目標に届いていない点は残念。授業と地域産業・先端技術の繋がりを明確にし、興味を引き上げて欲しい。
オ	高大連携や企業等による外部指導者の充実および専門的スキルの上と視覚化	外部指導者を積極的に活用することで、工業教育を充実させる。	・外部指導者の活用を年間 3 回以上（各工業学科ごと）。	工業科	・技能検定指導や課題研究指導など各科 3 回～6 回外部指導者を活用し工業教育の充実を図った。	A	A	外部指導者から実践的な制作技術を学ぶ取り組みは、生徒・教員・企業の三者にとって気付きや学びをもたらす有意義な機会である。
		生徒の技術・技能向上に取り組み、資格検定取得者数の増加を図る。	・「資格取得に向け、積極的に取り組んでいる」と答える生徒 80%以上。	工業科	・資格取得に向け、努力した 83.6% ・各科で検定、資格指導を行った。第一種および第二種電気工事士の補講を放課後、乙種 4 類危険物の補習を始業前に行った。	A	A	資格取得に向けて取り組む生徒の割合が大きく伸びている点に驚いた。資格の価値が生徒に伝わっている証拠。日頃の声掛けや外部指導者、キャリアカフ

							エなどの継続的な取り組みの賜物。 素晴らしい結果。「資格が欲しい」だけでなく、ものづくりに生かすことへの興味に繋げてほしい。
	工業高校で学んだ知識技能を外部大会で発揮する機会を提供する。	・技能競技大会等へ積極的に参加し、4種目以上で上位入賞する。	工業科	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットアイディア甲子園に挑戦した ・高校生ものづくりコンテスト3種目にエントリーした。 ・全国プラモデル選手権大会 単体部門 コトブキヤオリジナル IP コース 優秀賞 	B	A	<p>各種競技大会の積極的な参加や、結果を正門前の垂れ幕などで広報する取り組みは、生徒の自己有用感を高め、周囲の生徒にも良い影響を与える。</p> <p>全国大会出場など具体的成果が出ており、学校のブランド力向上にも寄与していると感じる。</p>
企業人として必須である安全意識の確実な醸成	実習・実験時において、5Sに関する指導を徹底して実践する。	・「実習・実験では、5Sおよび安全確保を意識して取り組んでいる」と答える生徒100%達成。	工業科	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・実験で、「5Sおよび安全確保を意識して取り組んでいる」と答える生徒は97.9%だった。 ・毎回の実習に安全教育および清掃を実施した。 ・ヒヤリハット報告書を作成した。 	B	B	<p>安全教育に力を入れている点を高く評価する。ヒヤリハット報告書は、生徒や先生方等で共有すれば安全に向け効果を発揮していく。</p> <p>高い目標値であるが、企業として大変重要なこと。その意識を高めてほしい。ヒヤリハット報告書づくりはよい。</p>

		<p>服育の一環として、実習服着用指導を行うことで、相乗の効果を上げる。</p>	<p>・入学時オリエンテーションで実習服に関する内容を入れる。</p>	<p>生徒支援部 工業科</p>	<p>・事故が起こるメカニズムに触れながら、適切な説明をした。</p>	A	A	<p>保護者へ説明する機会を設けることは非常に有意義である。</p> <p>事故防止の観点を理解する良い取り組みである。</p>
カ	ホームルーム活動および生徒会活動の自主的な運営	<p>行事等を成功させ、自己有用感を育む。</p> <p>各専門委員会の活動を活性化させ、主体性および協調性を育てる。</p>	<p>・「伝統行事である吉峰祭に積極的に参加し、係の仕事を行った」と答える生徒100%達成。</p> <p>・清掃活動や環境整備作業に積極的に取り組んでいると答える生徒70%以上。</p>	<p>生徒支援部 総務部</p>	<p>・95%の生徒が、積極的に仕事を行ったと回答した。当日対外試合で参加できない生徒がいたことを考慮すると、十分な成果である。</p> <p>・清掃活動や環境整備作業に積極的に取り組んでいると答えた生徒は87.1%だった。</p>	A	A	<p>企業連携を深めながら実施される吉峰祭は新たな伝統として定着しつつある。他校の文化祭とは一線を画しており、各科の出し物や特色が</p> <p>“ものづくりの楽しさ”として表現されている点が大きな魅力。今後さらに地域社会へ広く周知されるべき価値がある。</p> <p>吉峰祭に企業参加した。皆さんの行動、意欲が見える展示が素晴らしかった。</p>
	部活動の活性化	<p>部活動の活動計画に沿って、効率的効果的に活動し、参加しやすい環境を整える。</p> <p>生徒による応援活動により愛校心を育て、選手の自己有用感の醸成を図る。</p>	<p>・「部活動に無断で休まず取り組んでいる」と答える生徒80%以上。</p> <p>・部活動壮行会の定期的な開催。</p>	<p>生徒支援部</p>	<p>・83%の生徒が、部活動に休まず取り組んだと回答した。</p> <p>・高校総体前の運動部壮行会、野球応援、東海大会、全国大会に参加する部活動、個人に対して適宜壮行会を行った。</p>	A	A	<p>主体的に部活動に取り組む姿勢を育むことが、探究的な学びにもつながる。地元企業を巻き込んだ取り組みが他の部活動にも広がれば、資金面でも活動面でも新たな可能性が生まれてくる。</p>

	読書活動を通じた知性・創造力の育成	本に親しむ習慣を身に付けさせるとともに図書館活用の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの定期的な発行と貸出数の増加。 ・「朝読書の時間は有意義だ」と答える生徒80%以上。 ・「図書館やフリーレンタルブックコーナーにある本を今年度読んだ」と答える生徒70%以上。 	図書・研修部	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの発行数は年間で5部。図書の貸し出し数は351冊。(昨年度383冊) ・「朝読書の時間は有意義だ」と答えた生徒は64.7%であった。 ・「図書館やフリーレンタルブックコーナーにある本を今年度読んだ」と答える生徒47.6%であった。 	A	B	<p>青少年赤十字文庫の整備やALTの協力によるイベントなどを通して、生徒が図書館に親しみをもち、利用の敷居を下げる取り組みを進めたことを評価する。</p> <p>読書の習慣は小・中学校でもつける努力をしている。引き続き取り組みで頂きたい。</p>
	放送活動を通じた学校教育の活性化と、生徒の主体性の育成	生徒が放送業務を主体的に運営する環境を整備し、生徒の活躍機会を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み、体育祭、吉峰祭における放送業務の実施。 ・校外イベントへの放送担当としての参加。 	図書・研修部	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭、文化祭などの行事で放送計画を立て、生徒は主体的に計画どおり活動できた。また、昼休みの放送を一年間通じて計画的に実行することができた。 	A	A	<p>放送委員会の生徒にアナウンスを依頼した。大変好評で、県運転免許課からも高い評価をいただいた。</p> <p>生徒主体の取組は評価できる。</p>
キ	学校公開・情報発信の充実	工業高校の魅力を見直し、積極的に広報する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページのCMS移行や、学校案内および広報チラシのデザインと配布方法等に関し、グローバルな視点から有効な広報方法を検討する。 ・夏季休業中に1年生・進路決定後に3年生による母校訪問を実施することで効果的な広報活動を展開する。 	未来戦略委員会 学年部 工業科	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成したデザインをもとに学校案内や紙ファイル作成をした。 ・昨年度に引き続き、夏季休業中で高1生による母校訪問を実施し、行事として定着化させた。実施できない中学校は管理職が訪問し、本校の認知度を分析した。また、冬には3年生の母校訪問を実施した。 ・富士地域のイベント「ジャトコフェスタ2」科参加 	A	A	<p>ここ数年でイメージが変わり、充実した楽しい学校生活や吉原工業高校で学ぶことの意義・魅力のPR力が増したと感じる。</p> <p>今後、生徒数を確保するためにも様々な手法で学校をPRし、知名度を上げることは不可欠。SNSや母校訪問、体験入学など、広報活動が数値として成果を上げている。</p>

		<p>公式ホームページや公式SNSを活用した学校広報活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・投稿担当者を明確にすることで、公式ホームページおよびSNSへの投稿月平均10回以上。 ・投稿担当者を明確にしつつ、公式SNSを精選統合することでフォロワー1500以上。 	<p>教務部 (情報)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS投稿数は130件、フォロワーは1542件となり目標を達成することができた。 	A	A	<p>ホームページは各科の紹介が分かりやすく記載されている。デザインや見せ方に工夫をすると閲覧数や認知度・ブランディング力も上がる。</p> <p>毎回インスタを見ている。行事だけでなく学校生活もわかるのは、入学者を増やすきっかけにできる。</p>
		<p>情報公開を推進することで体験入学者数を増加させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学参加者数、前年度比15%アップ。 	<p>総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の参加者数は239人で前年度比11%アップしていた。 	A	A	<p>前年度比11%アップという結果を聞き驚いた。日頃の努力が数字として表れている。</p> <p>STEAM教育の方向性もあり、技術を学ぶ重要性が向上している。</p>
		<p>体験入学の内容を充実させることで工業を志す中学生を増加させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学について「とても満足できた」と答える参加者65%以上。 	<p>工業科 総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学について、とても満足できた69% ・各科で学科の説明する場所を設定した。 ・空調可能な設備を優先して使い、体験実習を行った。 ・科の代表的な学習内容を理解できるテーマを設定した。 	A	A	<p>学校の魅力をより深く伝え、入学意欲を高めるうえで継続的なフォローが重要。本校はすでに強みを多く持っているので、仕組みを整えるだけで大きな成果につながる。</p> <p>満足度が目標値より高いことは評価できる。工業高校の魅力が伝わるよう内容を充実させてほしい。</p>

ク	自律的で信頼される学校事務の推進	法令を遵守し、正確で迅速な会計事務処理を行う。	・監査での文書指摘事項をゼロにする。	事務部	・職員相互にチェック機能を働かせ、ミスをなくすことに努めた。監査での指摘は無かった。	A	A	監査での指摘ゼロ大いに評価できる。教職員の理解と相互によるチェック、取り組みの賜物と思う。
		教職員と連携した施設設備の安全点検を実施し、計画的に改善への取組を行い、安心安全な教育環境の整備を行う。	・「施設や設備は安全が保たれている」と答える生徒、保護者ともに90%以上。	事務部	・「施設や設備は安全が保たれている」と答えた生徒90.9%、保護者97.2%だった。	A	A	地震だけでなく豪雨災害への対策についても継続的な整備をお願いしたい。グラウンド照明については全面LED化を期待。 保護者評価が高いことは素晴らしい。安心できる環境が整っている。
ケ	働き方改革に向けた業務改善	ブラウザ型AI採点システムの導入により教員の採点時間軽減を図る。	・新システム活用に関する研修会等を開催し、「採点時間が短縮された」と答える教員95%以上。	教務部	・AI採点システムを運用するための環境整備に取り組んだ。	A	A	教職員の負担軽減のための環境整備は大変意義がある。利便性の向上に期待する。 負担軽減に向けた取り組みは大事。ただ、生徒の実態を把握し指導することは教師の基本だということは守って欲しい。
		定時退勤に向けた目標を立て、取り組む。	・「定時退勤日に定時退勤に向けた目標を立てて取り組んだ」と答える教職員が95%以上。	管理職	・毎月末の調査平均の延べ数で「定時退勤日に定時退勤に向けた目標を立てて取り組んだ」と答えた教職員が98.6%（12月末まで）となった。	A	A	慢性的な人員不足で結果的に管理職への負担が大きくなる。若い世代が「管理職を目指したい」と感じられる環境づくりを進めてほしい。 職員の働き方改革に向けた意識改

								<p>革が進んでいることは持続可能な学校経営の観点からも重要。</p> <p>教員のライフワークバランスの改善により、学校全体の健全な運営に繋がってほしい。</p>
		<p>部活動の活動計画に基づいた実施に努めるように働きかける。</p>	<p>・「部活動の活動計画に基づき活動できた」と答える教職員100%達成。</p>	<p>管理職</p>	<p>・「今年度、部活動の活動計画に基づき活動できたか」という問いに「できた」と答えた教職員は100%であった。文武両道を重視して、テスト前の活動に際して学習会を実施する団体があった。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>2年連続で目標を達成されたことに、高く評価する。今後も活動計画に基づき、生徒を支えてほしい。</p> <p>テスト前のフォローはいい対策だと思う。</p>